

【地理総合面接プリント（第6回）】

はじめに

レポートの答えは、ほとんどが教科書・資料集にあります。分からないからと簡単にあきらめないで、しっかり読み、調べる習慣を身につけましょう。

☆本時のねらい

- 日本列島の自然環境の特徴について世界的な視点からとらえるとともに、地形と気候の両面から理解する。
- 日本列島の自然環境の特徴と各地域において発生する自然災害との関係性について、世界的な視点から考察する。
- 日本列島におけるさまざまな自然災害の発生要因について自然環境や社会環境との関わりから考察する。
- 自然災害が人々の生活や社会全体へもたらす影響について多面的・多角的に考察する。
- 自然災害が人々の生活や社会全体へもたらす影響をふまえ、地域性をふまえた防災・減災対策と災害に強い持続可能な地域づくりのあり方について考察する。

【1】「日本の地形の特色」について、下の文の（ ）のなかに適語を記入しなさい。
（教科書P176～177，資料集P56参照）

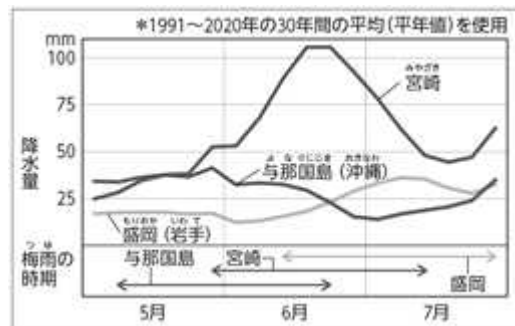
☆学習のポイント

- 日本の地形の特徴について理解する。
- 日本の地形の特徴が河川や海岸の特徴にどんな影響を与えているかを理解する。
変動帯に位置することは、日本の地形の特徴を形成する重要な要素です。
P176・177をよく読んでおきましょう。

【2】「日本の気候の特色」について、次の問いに答えなさい。
（P178～179，資料集P57参照）

☆学習のポイント

- 日本の春夏秋冬それぞれの季節を特徴づける天候・気候の要因を理解する。
- 日本各地の地域ごとの気候の特徴を理解する。
 - (1) 日本に四季の変化をもたらす気団を、P178・179で復習しましょう。夏は、温暖で多湿な小笠原気団が日本の天候に影響します。P179の図5で、季節ごとの気圧配置をよく確認しましょう。夏は南高北低の気圧配置となります。やませはオホーツク海気団からの北東の風のことです。冷夏の年には、東北地方の太平洋側でやませが続き、東北地方北部から北海道の太平洋側で冷害が発生することが多いです。
 - (2) 教科書P178の本文から答えを抜き出しましょう。
 - (3) 日本各地の地域ごとの気候の特徴を理解しましょう。



【3】「地震災害・津波災害（1）（2）」について、下の文の（ ）のなかに適語を記入しなさい。

（教科書P180～183，資料集P58～63参照）

☆学習のポイント

- プレート境界地震とプレート内地震の違いについて理解する。
- 震源の位置や土地の条件によって、引き起こされる被害にも違いがあることを理解する。
阪神・淡路大震災は人々の居住地域の直下で起きた内陸型地震でした。
P180・181で海溝型地震と内陸型地震の違いや液状化のしくみを復習しましょう。地震はくり返されます。被害を最小限におさえるために知識を身につけましょう。

【4】「火山の災害とめぐみ」について、次の問いに答えなさい。

（教科書P184～185，資料集P64～65参照）

☆学習のポイント

- 日本列島において火山活動が活発な理由を理解する。
- 火山活動にともなう災害の種類を理解する。
- 火山活動が関係するさまざまなめぐみを理解する。
- 過去の災害の記録が今後の災害の軽減につながり得ることを理解する。
- ハザードマップを利用し、身近な地域の自然災害の可能性を読み取る。
 - (1) 火山列島に位置する日本では、火山と共存していくことが必要です。火山について、P184・185でよく復習しておきましょう。
 - (2) 火山列島に位置することで、火山のめぐみを受けることもあります。P185でさまざまな例を確認しておきましょう。



裏面に続く ➡

【5】「気象災害（1）（2）」について、次の問いに答えなさい。
 （教科書P186～189，資料集P66～67参照）

☆学習のポイント

- それぞれの季節で発生しやすい気象災害とその特徴について理解する。
- それぞれの季節で発生しやすい気象災害の要因・影響を考える。
- （1）ニュースでもよく耳にする言葉ですので，選択肢のそれぞれについてP186～189で復習しておきましょう。
- （2）大雨や集中豪雨によって発生する洪水災害は，どのように発生するのか，その原因を理解しましょう。

【6】「都市と災害」について、教科書P191の「災害と都市の生活」を読んで災害がもたらす都市特有の被害や影響のの例を一つあげなさい。[思・判・表]
 （教科書P190～191，資料集P67参照）

☆学習のポイント

- 都市型災害にはどのようなものがあるかを理解する。
- そのうえで，都市型災害の要因・影響を考え，都市型災害が発生した際にどのような行動をとるべきかを考える。
- 都市の建設物や生活スタイルなどが災害のときにどのように影響するか，P190・191を復習して具体的にイメージできるようになっておきましょう。

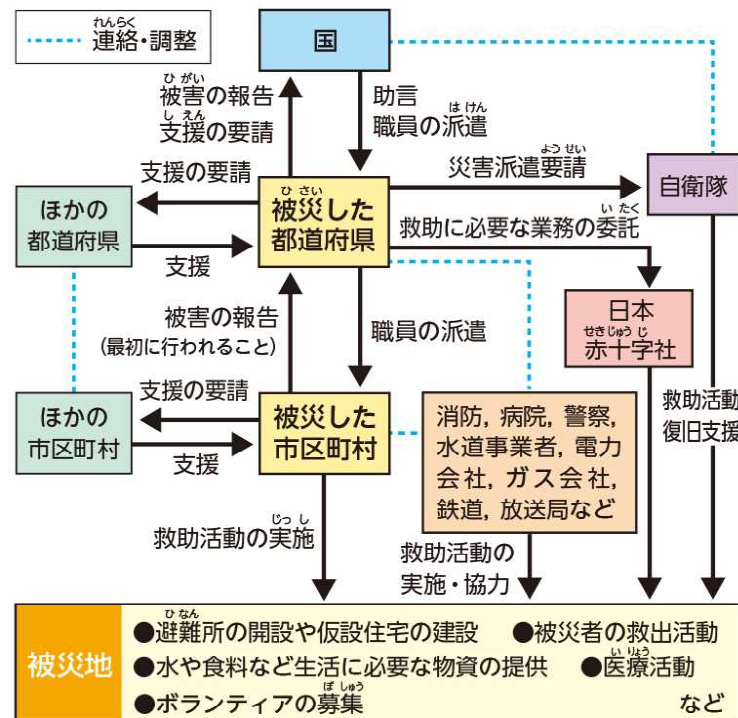
【7】【論述問題】「防災・減災と復旧・復興」について、教科書P193のチェックB『自助』『共助』『公助』とはそれぞれどのようなものか、本文を参照にして説明しなさい」に取り組もう。
 （教科書P192～193，資料集P176～177参照）

☆学習のポイント

- これまでの災害の教訓を生かし，特に，自助・共助において，どのような対策を講じていくべきかを考える。

大規模災害の対応について、自助・共助・公助の視点からどのようなことが行われているか理解する。くり返す地震と津波に備えて，各地で対策が進められています。

ことばの整理
集中豪雨と線状降水帯
前線が停滞している状況下で，その前線に向かって暖かく湿った空気が流入し，そこで生じた積乱雲が停滞し，発生・発達をくり返すと雨をもたらす長い線状の雲の帯ができる。 この雲が集中豪雨をもたらす



【8】「生活圏の調査と地域の展望」について、下の文の（ ）のなかに適語を記入しなさい。

（教科書P203～211，資料集P10～19参照）

☆学習のポイント

- 地域調査の手順や具体的な手法を理解し，身近な地域において地域調査を実践する。
- 身近な地域の変遷を新旧地形図の読み取りなどから理解する。
- 身近な地域の課題に対して異なるスケールを織り交ぜて考察し，調査テーマを設定する。
- 身近な地域の情報を得るためのさまざまな手段と注意点を理解する。
- 身近な地域で生じている課題の要因をさまざまな角度から分析し，仮説を設定する。

P204・205を参考にして，地形図を調べたり，実際に歩いたりして課題を見つけましょう。

P206・207を参考にしましょう。P206の図2で紹介されているウェブサイトも実際に使ってみましょう。

P208・209を参考にしましょう。野外調査では周囲の人や協力してくれる人への配慮も大切にしましょう。

P210・211を参考にしましょう。グラフや地図を実際に作成してみましょう。